



不登校の子どもが増える中、適応指導教室やフリースクールといった学校以外の選択肢が県内で注目されている。秋田市広面の通厩南高校・第一学院高等学校秋田キャンパスが開設する中等部もその一つ。同校の高校生と交流できるのが特徴で、中学校に通えない生徒たちの心よりどうにかなっている。

5月下旬の放課後、同校の一室にフリースクールの所属する高校生の人ど学生2人が集まった。この日の活動は、校内に掲示するフェルカムホードの作成。季節ごとにデザインを交えており、生徒たちは色とりどりのアーカーを手に、花火やイルカなど夏のイメージを描いた。「かき氷も描いたよ」「ふわふわ感が手だね」。手を動かしながら、学年の垣根を越えて楽しそうにやり

第一学院高・秋田キャンパス 中等部

どの。好きなアニメやゲームの話でも盛り上がり、あ組むは、全国の第一学院が数年前から展開。秋田キャンパスでは年間約20人が入会し、現在9人が通っている。ただどこにも来ようがない。家を引きこもりがちな生徒が、仲良くできる人が増えた。同世代と趣味の話やインターネットを介した学習サポートを受けられ、した女子学生の一人は話学校によっては出席扱いにしているが、悪口を言われる所もある。生徒同士で交流する時間やサークル活動となり、学校へ行けなくなった。現在は息で勉強している。第一学院には月4回ほどサークル活動や生徒がおしゃべりする「ホムス」に参加するださまさまな理由から在籍する学校に通えない中学生343人で過去最多となった。

不登校生のよりどころに

学内の高校生と交流も

秋田キャンパスの豊島弘嗣キャンパス長は、「不登校者の増加に伴い、中等部の問い合わせも増えた。受け皿の整備は喫緊の課題だ。公的機関と民間が協力し、子どもたち一人一人に合わせた居場所を提供していきたい」と語る。中等部は中学生が対象。月額が1万1千円、登録料は500円。このほか、不登校の小中学生を持つ保護者がスクールカウンセラーへ悩みなどを相談できる「来話会」を月1回、無料開催している。中等部に入会していても参加できない。問い合わせは同校の18・8325・9037

(川村巴)



イラストでフェルカムホードを制作する中学生ら5月下旬